



議会だより

ピッツシリ

第101号

2017年

1月25日

発行



特集【新春議員インタビュー】...P2~3

【定例会】...P4

報告、条例改正、補正予算他

【一般質問】...P5~7

・グループホームオープンに係る行政の関わりと支援施策等

・高齢者の福祉対策（住環境整備）

・これからの防災体制・減災対策

・就学援助の拡充・見直し・地産地消・食育推進の現状

【常任委員会報告】...P8~9

特集【未来を担う声(高校生)】...P10

餅つきペックンコ

羽幌藤幼稚園でのお餅つき
(12月16日撮影)

ぜひ議会の傍聴にお越しください

次回の定例会は **3** 月です

■発行：北海道羽幌町議会 ■編集：議会広報特別委員会
北海道苫前郡羽幌町南町1番地の1

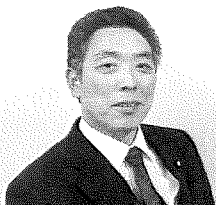
議会事務局 TEL (0164) 68-7011 FAX (0164) 62-1278

新春インタビュー!!



全議員にお聞きします

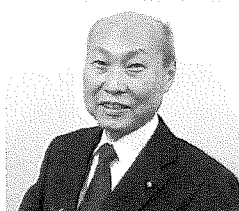
「町の課題について、聞かせください」



村田 定人 議員

人口減少対策について聞かせてください
地方創生が叫ばれている中で、人口減少を少しでも食い止める事が、もっとも重要です。そのためには、一人一人が「住みやすいね」と言える町にする事ですが、優先順位をつけるのであれば、若者、子育て世代が安心して生活できる魅力ある街にする事が大切。一生懸命取り組みたいです。

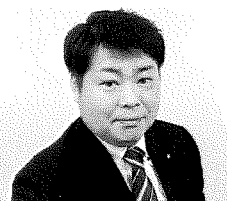
人口減少対策について聞かせてください



金木 直文 議員

商工業振興について聞かせてください
地域経済を支えているのは、その地域でがんばって営業されている中小業者のみなさんと、そこを利用されている地域の方々です。「地域循環型」経済の活性が叫ばれて久しいですが、商工会からも要望されている「中小・小規模企業の振興に関する条例」の制定を、こつしな観点から全町の議論しながら作り上げていくべきだと考えます。

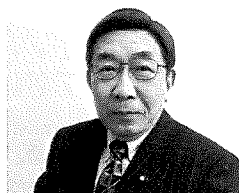
商工業振興について聞かせてください



阿部 和也 議員

子育て支援について聞かせてください
来年度から羽幌町の子育て支援策が拡充しますが、羽幌保育園閉園の代わりとなる支援策ではないため、今後は今以上に保育園の規模、受け入れ、預かり保育の状況を注視しなければなりません。そして、子育て世帯の経済的負担の軽減策も必要だと思います。

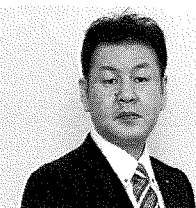
子育て支援について聞かせてください



船本 秀雄 議員

高齢者対策について聞かせてください
厳冬期の生活が厳しく一人暮らしに自信がない等から羽幌を離れる高齢者が増え、このままでは65歳以上の高齢者までが減少に転じ「究極の過疎」が進むと考えます。住み慣れた町で、一人暮らしの高齢者や高齢の夫婦が安心して暮らせる住まい（サ高住）整備の実現に努めます。

高齢者対策について聞かせてください



小寺 光一 議員

ふるさと教育について聞かせてください
少子高齢化と言われる今日ですが、羽幌町には年間約40〜50名の子ども達が生まれ、この地で育ちます。しかし、高校卒業後には多くの子ども達は羽幌を離れてしまします。故郷を思う気持ちや誇りに思う心を小さな時から学び・体験する事が大切だと考えます。

ふるさと教育について聞かせてください

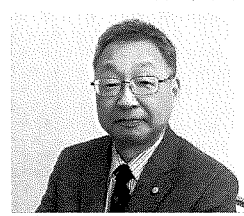
福寿川護岸整備と
静穏度対策について
聞かせてください



熊谷 俊幸 議員

漁業はわが町の大切な基幹産業である。小型船が利用している福寿川護岸は老朽化が進み破損区間が増加している。町は早急に次年度計画を立ち上げ、予算を組み、整備改修する事に期待したい。中央心頭の静穏度を高めるために、国直轄事業が早期に整備され、完了する事と西防波堤からの波除堤の建設に今後共に関係者と協議を重ね、更なる解決策を進めるべきである。

地域医療について
聞かせてください



磯野 直 議員

医療対策について
聞かせてください

4月以降の羽幌病院において現在の稼働病床数確保、一部回復期病床に転換、総合診療医の配置を検討し留萌市立病院と役割分担等出されている。総合診療医とは、広く患者の初期対応、初期治療ができること言うことだが、外科、整形外科、産科医の配置についての要望は引き続き必要である。



平山 美知子 議員

今、道立羽幌病院では、外科や整形外科の常勤医師の確保が大きな課題となっています。このままいくと将来留萌市立病院に通院しなければならぬ事態も考えられます。議会は今までも道立羽幌病院の医師確保に努力していますが、そのためには町民の協力が不可欠です。道立病院をもっと上手に利用することも大事です。それがひいては病院の機能充実にもつながります。

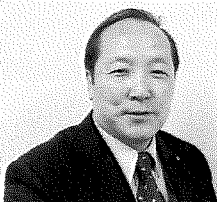
地方創生について
聞かせてください



寺沢 孝毅 議員

スポーツ振興について
聞かせてください

何らかの形でスポーツに親しむことは、健康の維持・管理にもつながり、さらに生涯にわたるスポーツライフを築くためには、子どもの時からの運動習慣、特に家族で行うことが重要であります。そのためには、スポーツ施設の充実を図り、多様なスポーツイベントの開催やスポーツ合宿誘致などが重要です。

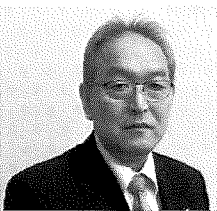


逢坂 照雄 議員

現役世代の人口流出を食い止め、移住者を少しでも受け入れるために医療・教育・子育て・住環境の一定レベルの維持が必要。1次産業をわが町の揺るぎない経済基盤とすべき。観光振興も重要で、二島への出入り口として町のサインを工夫するなど、訪れてワクワクする町にしたい。また、自然や暮らしをモチーフに、アーティファクトが創作・販売できる環境整備をするなどし、移住を促してはどうか。

議会改革について
聞かせてください

羽幌町議会は、山積する課題解決のため、常に時代に対応した、地方分権を先導する議会を目指し、議会改革検討委員会（仮称）を今春から立ち上げ、町民の皆様への付託に応えられるよう、努力をしていきます。更なるご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



森 淳 議員

◎報告－1件 ◎議案－7件

◎承認－1件 ◎同意－1件

◎諮問－1件 ◎発議－2件

◎意見案－3件 ◎一般質問－3名

第9回定例会

平成28年12月8日～9日



報告



駒井 久晃 町長

羽幌町の漁業水揚状況

北るもい漁協の販売取扱高は、11月末時点で約57億7900万円と、前年同月と比較して8億8800万円余り増加し、年間事業計画額の52億円を既に達成している。

漁獲量と魚価を前年比較するとカレイ、ホタテ、タコ、ヤリイカが増加し、エビ、ウニ、ナマコなどが年初めから減少し、特にエビは前年比35%減の漁獲量状況である。

魚価は多くの魚種で上昇し、エビは約21%、ウニ約16%の大幅な増となっている。

町内の前年比、総漁獲量と販売取扱高は、羽幌本所38トン減、約2億2100万円減、天売支所95トン増、約2610万円増、焼尻支所76トンの増、約3370万円増となっている。



報告

第2次定期監査

羽幌町監査委員により10月5日から28日まで、社会教育課、羽幌小学校・中学校、学校管理課・学校給食センター・町民課・福祉課・健康支援課・出納室・議会事務局・財務課、総務課・地域振興課の定期監査を行った。財政に関する事務執行が適正かつ効率的に行われているかを関係書類・帳簿等に基づき確認と聞き取りを実施した。それぞれが適正に執行したと認められた。



条例

羽幌町農業委員会

委員定数条例の改正
・農業委員の選出方法が選挙から議会同意による町長の任命制に移行。

羽幌町立保育所条例を

廃止する条例
・平成28年度末をもって閉園となるため。



補正

一般会計補正予算

4264万円

【主な補正内容】

- ・シングルペアレント受入れ
広告宣伝委託費 100万円
- ・おろろんウインターフェスティバル開催事業補助金 80万円

■臨時福祉給付金事業

2787万円

■天売高校生徒確保事業

75万円

■専決処分

旧宮坂ビル屋外階段外壁取壊し工事 118万円

【起立採決で承認】



旧宮坂デパート



諮問

羽幌町教育委員会委員及び人権擁護委員の任命

羽幌町教育委員会委員の任期満了に伴い、松田肇氏を選任した。
人権擁護委員の任期満了に伴い、米山しげみ氏を選任した。



意見書

・地方議員の厚生年金制度への加入法整備の実現。
・大雨災害への財政支援及び早期の災害復旧。
・JR北海道へ現営業路線維持の財政支援を求める。

船本 秀雄 議員

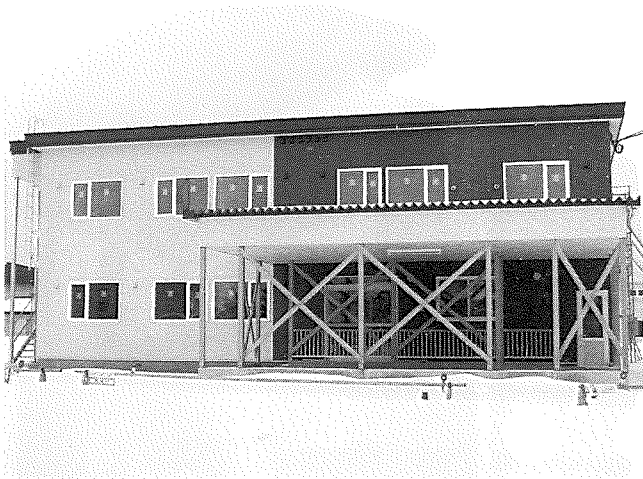


問 民間の高齢者施設の入居者に支援をしては

答 支援は難しいが検討会議ででき得る対応をしている

問 高齢者が安心して暮らせる住環境(サ高住)の整備を

答 「サ高住」の必要性についてアンケート調査を行う



民間が建設した「グループホーム」(3月オープン予定)

民間運営の「グループホーム」入所者に支援を

問 本年4月オープンの「グループホーム」の入居料は、おおよそ月額10万

答 国民年金受給者が施設に入居する費用としては不足しているものと思われるが、貯蓄の取り崩しやご家族の支援などにより入居されているのが現状のようである。

問 貯蓄の余裕がない、家族の支援もなく、国民年金の受給額で生活している方々が多くなると聞いている。そういった困っている方の相談の対応は、どのようなサービスが必要で、どこか等、ケアマ

問 貯蓄の余裕がない、家族の支援もなく、国民年金の受給額で生活している方々が多くなると聞いている。そういった困っている方の相談の対応は、どのようなサービスが必要で、どこか等、ケアマ



留萌市内の「サ高住」

ネーチャーを含め個別に検討会議の中で、でき得る対応をしている現状。

意見 現在、厚生労働省、国土交通省では高齢者の居住系施設の増設方針を打ち出しており、全道・全国的に整備が進められている。我が町でも早急に検討すべきである。

高齢者の住環境整備

問 高齢化社会が進む中、羽幌町の高齢化率は約

40%(特に焼尻は約55%)留萌管内では上から2番目、道内の市町村でも上から30番目となっている。また、羽幌町内の一人暮らしの65歳以上の高齢者も急増し、現在、約900名、今後も上昇が見込まれる。昨年公営住宅で3名の一人暮らしの高齢者が孤立死され、独居のシニアの存在を印象付けた。一人暮らしの高齢者や高齢の夫婦が安心して暮らせる住まいを目指し、国交省が2011年

10月より制度がスタートした「サービス付き高齢者向け住宅(サ高住)」の整備に向け、わが町も早急に検討すべきと考えるが。

問 「サ高住」のニーズがどの程度あるかということの把握が必要であることから、第7期計画策定のためのアンケートを29年度に実施するので、町独自の項目を加えて調査を行う。

答 グループホームとは要支援2以上で認知症の高齢者が1ユニット(5~9人以下)ごとで共同生活する施設。

※サービス付き高齢者向け住宅(サ高住)とは比較的元気な単身の高齢者や高齢の夫婦が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、安否確認等簡易なサービスがついた高齢者向け賃貸住宅。

一般住宅と同様にヘルパーやデイサービスなどの介護保険サービスの利用が可能です。

村田 定人 議員



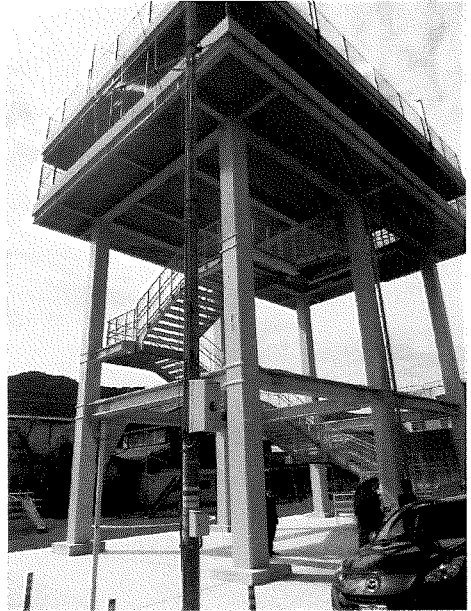
問 これからの防災・減災対策は

答 効率的な訓練の実施を検討したい

避難訓練の実施

問 11月に地震、津波を想定した避難訓練を実施したが、成果と課題は。

答 津波の避難訓練参加率は9.81%、中央公民館での研修体験訓練では、約230人の参加があり、防災意識の向上や、知識の普及も一定程度は図られた。課題として、訓練の実施時期や周知の方法、サイレンが聞こえなかった等があり、次年度以降に向け解決へ取り組む。



視察した三重県紀北町の津波避難タワー

問 避難訓練の参加率を高めるため、防災意識の高揚をもつて図る。また、避難場所の指定も実態に合わせて、見直しをしては。

答 内閣府の委託業者が訓練参加住民等へアンケート調査の分析と評価をまとめている。その評価等も踏まえて、指摘も加味しながら課題解決の取り組みを検討する。



津波浸水予想地域の案内看板

問 防災ハザードマップを誰が見ても分かりやすいものに。

答 今年道の方から新たに、浸水地域とか決まったら、つくり直さなければならず、内閣府の委託業者等の意見も踏まえ、担当課で検討する。

問 津波の避難困難地域への対策は。

答 津波避難困難地域は、現状の津波浸水予想区域においては設定していない。

問 避難行動要支援者への対策は。

答 避難行動要支援者は約350人おり、対象者から消防や町内会などの関係者に情報提供することの同意を得て、町内会や自主防災組織など地域の方々による個別の具体的な支援策を進める。

問 長期的な視点で、災害対策本部、避難場所、避難所の設定や、耐震化の考え方は。

答 災害対策本部は、役場

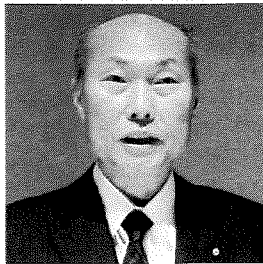
庁舎への設置を基本とし、困難な場合は中央公民館としている。避難場所、避難所は集会所、グラウンド、中央公民館、学校等を指定しているが、役場庁舎や一部集会所で老朽化が著しい状況であり、今後は公共施設マネジメント計画を基本に庁舎の改築や避難場所、避難所の設定を考える。

問 台風・豪雨・豪雪災害に対する訓練も行っては。

答 今後も各関係機関と連携し、各種の災害を時期及び時間帯も考慮した中で想定し、効果的かつ効率的な訓練を実施していく。



金木 直文 議員



問 小中学校の就学援助項目拡大を

答 来年度からクラブ活動費などを支給

就学援助の 拡充・見直し

問 町内の小・中学校における要保護、準要保護の実態、認定基準は、どうなっているのか。

答 11月末現在で、59世帯89名。毎年、60世帯90名前後が認定となっている。

認定基準は、生活保護法に規定されている要保護者、要保護者に準ずる程度に困窮しているもので、「生活保護法に基づく保護の停止または廃止」、「市町村民税非課税または減免、個人事業税の減免または固定資産税の減免」などの他、「教育長が特に援助が必要と認める者」として、所得基準に該当している者となっている。概ね小学校児童2名、40才代2名の4人家族で、保護者1名の給与収入とした場合、世帯の所得基準額は約208万円となり、収入額の目安は320万円となる。

問 国が補助対象項目に加えた3項目を拡充してこなかった理由、今後の対応はどのようなのか。

答 国庫補助の対象となるのは要保護世帯のみであり、就学援助の大半を占める準要保護世帯については、市町村の単独事業となるため、現状が妥当なものとして認識していた。しかし、管内の状況を踏まえ改めて検討し、29年度からクラブ活動費、生徒会費、PTA会費を新たに対象経費に加える。

問 新入学児童生徒用学用品費が6月支給となっているが、入学前の支給となるよう、時期の見直しを検討すべきではないか。

答 就学確定後に学校を通して申請、関係各課での認定基準の確認、認定不認定の決定といった事務に要する時間の関係から現在の支給時期となっている。事務処理上の課題を整理し、支給時期の見直しを検討したい。



羽幌小学校の新校舎

地産地消・食育推進

問 羽幌町の「地産地消・食育推進計画」が策定され、5年目を迎えた。推進状況はどうか。検討や評価などはどうか。

答 24年度に振興局の事業として管内の学校給食に管内産の食材が提供され、本町ではイサバヤ食堂のタコザンギとダイヤモンドのアイスクリームが提供され、アイスクリームは以後も本町の学校給食に提供している。



羽幌小学校の学校給食センター調理室

乳幼児期には健診時等に栄養指導、離乳食教室、育児教室時に手作りおやつ等の提供や親子クッキング、学校教育期の親子食育教室、子育て期には妊婦栄養訪問、中期には女性対象のヘルシークッキング教室、高齢期の男性には料理教室など、食育を広める活動をしている。

しあわせ荘では、米とみそは羽幌産を使用している。学校給食でも18年から羽幌産米を使用。

総務産業常任委員会

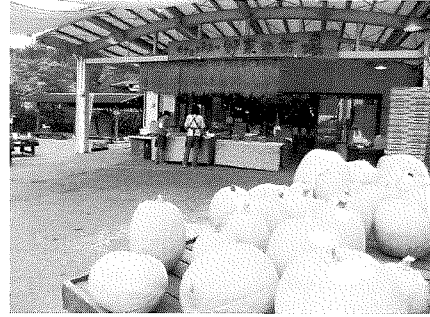
道外行政視察報告

10月17日から21日までの日程で、三重県伊賀市、紀北町、和歌山県印南町を訪ね、農業の6次産業の実践、防災・減災のまちづくり、役場庁舎建設の取り組みなどについて、視察・調査を行いました。

伊賀の里で年商55億円の 手作りファームを運営

伊賀市

大阪と名古屋という大都市の間に位置する伊賀市は人口9万4000人。1983年、郊外の丘陵地での、「伊賀豚」の誕生から始まる「伊賀の里モクモク手づくりファーム」(民間)。「生産からモノづくり、販売、サービス(農業公園、レストラン、宿泊)、教育(食育学習、貸し農園)に至るまで、常に農業と向きあいつつ『農業の新しい価値の創造』に挑戦として、現在は年商55億円、職員数は1000名という事業を展開している。



ファーム内の野菜塾市場

犠牲者「0」をめざし、 減災のまちプロジェクト

紀北町

紀伊と伊勢の国境に位置する東紀州の玄関口、紀北町は人口1万6600人。過去に、台風等による風水害、地震・津波など、大きな災害に幾度となく襲われてきた。特に、南海トラフを震源とする地震は100年から150年の周期で繰り返している。死者2650人を数えた安政東海・南海地震(1854年)からは162年が経過しており、

「いつ大地震が発生してもおかしくない」と語っている。震度や液状化危険度分布、津波による浸水域等の様相と、人的・物的被害、ライフラインや交通施設、経済被害等の想定結果を取りまとめている。

これまでの主な取り組みは、ハード対策では津波避難路整備(36ヶ所)、津波避難タワー整備、避難誘導灯整備(ソーラー41基、バッテリー式46基)、自主防災会倉庫整備(53ヶ所)など。ソフト対策では海抜表示シール(900枚)、避難誘導看板(1100枚)、津波避難マップ(全戸)、衛星携帯電話整備(10台)など。また、大規模災害時における防災拠点として、高速道路PAに地域振興施設「始神(はじかみ)テラス」を建設した。

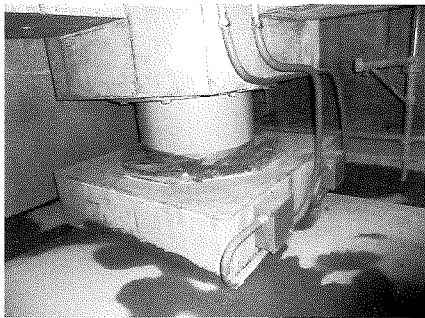


地域振興施設「始神テラス」

シンプルで強靱な庁舎 まもなく完成へ

印南町

和歌山県のほぼ中央にあつて、歴史、信仰、自然が息づくまち、印南町(いなみちよ)。人口は約8500人。現役場庁舎は築52年を数え、耐震性がなく、5年前の震度4の地震で壁面にひび割れが発生した。そこで、今後発生が予測される大地震にも行政機能が保持でき、災害対策本部としての機能が発揮できる新庁舎建築が決まった。新庁舎



新庁舎基礎部分の免震構造

は700mほど離れた高台に建築中(鉄筋コンクリート基礎免震構造、地上3階建)で、今年1月末完成予定。全体事

業費18億5700万円、内12億1000万円を「緊急防災減災事業債」で起債した。

(9月30日開催)

◆町有林(二股ダム)の現状

羽幌二股ダム、平地区の町有林、農業試験場などの現地視察を行った。

(10月13日開催)

◆除排雪業務

今年度の除排雪業務の契約についての説明を受けた。

・市街、原野地区は道路環境事業組合、離島地区は従来からの業者に委託する。

・作業基準は、車道、歩道とも、降雪量が概ね10cmに達した場合、他気象状況、道路状況等を総合的に判断する。

《主な質疑》

【質問】 昨年の除雪に関する苦情はどうだったか。

【回答】 9件あり、事務職員等が現場の確認をした。

【質問】 大雪時、中小路の除雪は夕方までかかっている。

除雪対策本部の立ち上げなどの検討をすべきではないか。

【回答】 体制づくりを検討したい。

文教厚生常任委員会

(10月6日開催)

◆空き家対策

担当課より離島地区の空き家の確認状況、旧宮坂デパートの今後の方向性等についての説明を受けた。

建替えについての、アンケート調査の結果と今後のスケジュールの説明を受けた。

◎今後のスケジュール

※公共施設マネジメント計画上の予定

①公民館

・平成29年5月～6月

基本構想策定

・平成29年度 基本設計

・平成30年度 実施設計

・平成31年度 工事着工

◆(10月25日開催) 羽幌小学校

新校舎建設状況

2学期より使用している、完成校舎部分を視察後、担当課よりⅡ期工事、Ⅲ期工事の進捗状況及び予定についての説明を受けた。

○Ⅱ期工事

(1)仮設児童玄関等の建設

(2)北・西側校舎の解体工事

(3)校舎建設、完成

平成29年5月末予定

○Ⅲ期工事

(1)仮設校舎等の撤去

(2)解体工事

(3)校舎整備工事

(4)外構工事

平成29年10月末終了予定

◆公民館・武道館建替え

担当課より公民館・武道館



中央公民館

②武道館

・平成29年5月～6月

基本構想策定

・平成29年度

基本設計・実施設計

・平成30年度 工事着工

(11月25日開催)

◆羽幌保育園

担当課より羽幌保育園の閉園、子育て支援事業の拡充についての説明を受けた。

◎羽幌保育園閉園

今後のスケジュール

・平成29年3月25日

閉園式(卒園式)

・平成29年4月以降

広報誌へ掲載

保育園内の備品等を処分し、

普通財産へ(解体予定)



羽幌保育園

◎子育て支援事業の拡充

・子育て支援センターの拠点

・次年度から羽幌町すこやか

健康センター内に移動

・実施時間の延長

・新規(増加)事業

①ビックあいあいスクール(仮称)

1歳～1歳5ヶ月を対象

②在宅訪問事業

事業に参加できない就学前児童を対象

③野苺くらぶ

離島地区に住む就学前児童を対象

・交流場所の提供

羽幌町すこやか健康センター内に設置

※時間は13時～16時

(11月30日開催)

◆高速船運賃3割引 事業実績

担当課より6月～8月の乗船客数、フェリー・高速船実収入についての説明を受けた。

◎平成25年度から平成27年度は6月だけ高速船運賃3割引としていたが、今年度は6

月から8月の3カ月3割引とし、約590万円の赤字とな

ったが、今年度すでに金額が

確定した、離島航路関係等の

補助金の残額で対応可能とな

り、補正は行わない考えとな

っている。

◆旧宮坂デパート 非常階段への緊急対応

担当課より旧宮坂デパート非常階段外壁に係る緊急対応

についての説明を受けた。

1、経過

(1)11月15日

町道側に外壁が倒れる可能性が確認された。

(2)11月15日～18日

庁内において協議し、外壁の撤去を決定。

※町が事務管理により撤去

(3)11月18日

建設業者により、外壁倒壊防止の応急措置を実施。

2、今後の事務管理

・電線にかバーの取付け

・足場の設置

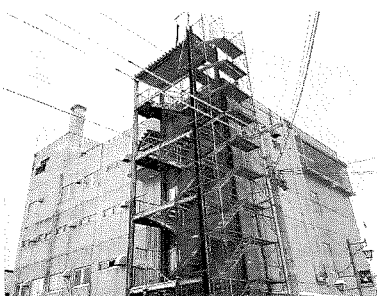
・外壁の撤去

3、所有者への通知及び費用の損害請求等

・所有者が倒産した会社であるため通知することができない。また費用の徴収が不

可能。

※費用は120万円程度

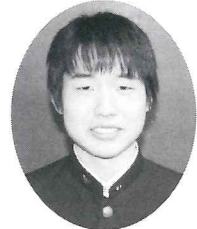


旧宮坂デパート

町民参加企画

未来を担う声

今回は羽幌高校と天売高校の卒業を控えた2名の3年生にインタビューしました。



北海道羽幌高等学校
近山谷 圭太さん(3年)

「〇最近、夢中になっていることは。」
「△レンタルのDVDで映画を見る事です。」
「〇好きな教科や授業は。」
「△英語です。クラスの雰囲気も良く、楽しく授業を受けられるので。」
「〇羽幌高校の良いところは。」
「△生徒同士が学年に関係なく仲が良く学校生活を送っている。また笑いが絶えないクラスも良いです。」
「〇心に残っている学校行事は。」
「△今年の学校祭です。最後の年でもあり、クラス全員で一丸となり優勝を目指しました。生徒会として、みんなに楽しんでもらえるように裏方として頑張りました。」
「△生徒数が減って、部活動を維持することや学校行事では男女比が学年によって違いもあり、工夫しながら行っているが、運営も難しい。」
「〇羽幌高校のPRを。」
「△部活動が盛んで、どの部活も先生も生徒も熱が入っている。学校行事も盛り上がりがある学校です。」

「〇3月に卒業しますが、在校生として新入生に一言。」
「△周りを気にしすぎず、自分の楽しいと思うことを取り組み、学校生活を充実させることで、学校全体が元気で楽しい学校になる。」
「〇羽幌町の好きなところは？」
「△通学時にも挨拶されることもあり、神社祭では町全体に一体感がある。人と人の距離が近いところ。」
「〇羽幌町で困っていることは。」
「△子どもや高校生が遊んだり集まって話す場所がない。店も少なく、友達の家など決まった場所になってしまっている。」
「〇どんな町になればよいですか。」
「△今よりもっと人口も増え、活気のある町になってほしい。」
「△進路は決まりましたか。」
「△北海学園大学経済学部に行くことになりました。」
「△大学で何がしたいですか。」
「△羽幌を出るのは初めてなので、不安も多いし、何があるかわかりませんが、勉強もその他も頑張りたいです。」
「〇将来の夢は何ですか？」
「△まずは大学に行って、地域のことを詳しく知り学んで、将来地域に貢献できるようにしたい。」
「〇議員になってみたいですか。」
「△そついう機会があれば、いつか議員になってみたい。」



北海道天売高等学校
野上 千利さん(3年)

「〇好きな教科や授業は。」
「△体育でのバトミントンです。部活でもバトミントンをしていますが、3年連続定時制の全道大会でベスト8に入りました。」
「〇一日のスケジュールは。」
「△朝8時から午後3時まで、島内のちびっ子ランドで働いています。午後4時25分から9時まで学校に通っています。」
「〇子ども達はとうですか。」
「△6名の子とも達がいいますが、みんなとても元気で可愛いです。」
「〇天売高校の良いところは。」
「△人数は少ないですが、その反面、先生方がわかるまで熱心に教えてくれることです。」
「〇学校で困っていることは。」
「△体育館が古く、床がへこんでいる場所があり、危なくて使えないことがあります。」
「〇天売高校のPRを。」
「△天売高校では運動会や天高祭などの行事には、子どもから大人まで島民の方々が一緒に参加してくれる楽しい学校です。」
「〇心に残っている行事は。」
「△天高ソーランというよさこい

こいをみんなで踊った天高祭が心に残っています。最後の年だったので今まで以上に楽しく踊れました。」
「〇3月に卒業しますが、在校生として新入生に一言。」
「△在校生は新入生をしつかり支えて欲しい。新入生は仕事をしながらの学校なので、体力面やスケジュールなどで大変なこともあるが、先輩や先生方に助けてもらいながら、早く学校になれて欲しい。」
「〇天売島の好きなところは？」
「△自然が豊かで魚介類が美味しい。特に天売のウニは自慢です。」
「〇天売島で困っていることは。」
「△交通手段が船のみで、船が止まると荷物も届かないことや、島を出るにも天候を見ながら何日も前に出なくてはいけないこともある。」
「〇進路は決まりましたか。」
「△はい。札幌のデザイナー学院に決まりました。」
「〇不安はありませんか。」
「△島では学校も小さく生徒も少なかったたので、生徒も多い学校に行くので、心配や不安もあります。」
「〇いつか天売島に戻りたいですか？」
「△年を取ったら戻らうかなと、ちょっとは思います。」

地域医療体制の要望

12月14日、森議長、寺沢副議長、医療問題調査研究特別委員会・平山委員長、磯野副委員長は、北海道及び道議会へ「道立羽幌病院及び西島の診療体制の充実強化等について」要望しました。

留萌地域選出の浅野貴博議員が「道立羽幌病院のあり方について」質問した道定例会保健福祉委員会を傍聴後、道地域医療推進局長、地域医療推進構想担当局長、道立病院室長へ、午後からは道保健福祉部長へ要望し、また道議会各会派へも要請しました。

今後地域住民の代表である議会として、現状を伝え、様々な要望・要請活動を行っていきます。



道庁会議室にて